

させました。落日の中の高貴な、寂しい微笑でした。私は、先生に気づかれない様に去りました。

終に、先生に次の歌を捧げ、御冥福を祈る次第です。

〃落日に淡く光れる新しき

学舎に老師はゝえみて居り〃

了

(本学助教授)

古武士の風格

猪 俣 日 康

私が先生に解交し始めたころは、オッカナイ、ワンマン的映像がクローズ・アップされ、しかも、その内に秘める古武士の性格がのぞかれ、近よりがたい存在に思えました。

しかし、歳と共に、渋い燐しがかゝって、温容玉のごとく、という形容がピッタリする位いの老大人になられたが、流石に本性は争えないもので、ときに鋭い鋒鋒がチラリと頭をだしたり、ピリット辛味の利いた皮肉がこぼれ落ちたりする場合もあったが、たいていはほんの瞬間的な閃めきに止どまられました。

先生の人望、人徳その全人格から滲みでる感化力と説得力は高く評価され、校舎建設に際して、全国の同窓会員の要請にこたえて、病軀をひっさげながら、南は長崎、北は青森と東奔西走なされ、異常な熱意と粘りを示されました。

最後の、青森県下布教巡錫は、布教師として、華の生涯を發進された先生でありましたが、痼疾には克つことあわず、遂に布教師としての本望である有終の美を飾ることゝなりました。

五年前、或る教会創立十周年記念に先生と共に招かれ、身延線入山瀬に下車したところ、ハイヤーがなく当惑しておると「猪俣君、どうだ霊峰富士を眺めながら歩こう」と、飄然として、重いカバンをさげ、ドンドン歩いて行かれた、ところが、目的地まで約四キロの道程である。流石に先生には少々參られたようでありました。

私は、こゝに先生の人の知らざるところに、求道者としての片鱗の一面をうかがい見る機縁にせしめたことは、このうえもなき倅でありました。

その時の法要に「私は、法要の後で、説教をするから、君は身延山を代表して挨拶をしなさい」と、先生という方はこのように、つねに後輩の育成に余念がなく、教育者として厳格なるお方であられました。

一昨年、拙寺の本堂落成式にご臨席いただいた際、祝宴に愛用の錫のカンビンと盃を添えて出しましたところ、「これで存むと、一段とうまい」と、申されましたので、後日おもひいたしましたところ、「君から貰った錫のカンビン二本位が定量だ——晩酌が楽しみだよ」と、お漏しになられては、感謝の意を表してくださいました。

想えば、先生の風格と人柄は、余人の知らざる、陰徳の蓄積によるところ真に大であられたと、今さらながら、先生のおそばに仕えさせていたゞいた倅は、寂しい思慕として、限りつきないものであります。

(厚徳寮々監兼図書館司書)